

平成 22 年 1 月 23 日

東京フォーラム

於：湯島聖堂

中斎塾 東京フォーラム

平成 22 年 第 1 回講話

平成 22 年初めての東京フォーラムです。本年もどうぞよろしくお願い致します。

こうやって挨拶をするのとならないのでは、かなり気持ちに違いが出ます。挨拶とは、相手の間合いに入っている。そうすると、「御挨拶痛み入ります」という日本語の通りになる。我々が何気なく使っている言葉も、日本の伝統に基づいた素晴らしい良い言葉が沢山散りばめられていますので、意識するとよろしいでしょう。

宝物のような言葉

では、恒例の質問を致します。

昨日一日、嘘をつかなかった方？

(・・・沢山手が挙がる)

意外とちょっとした嘘をつくものですね。そうすると気が咎めます。こんな嘘についてよかったかなと思うものは心に棘が刺さっていて、抜くのが大変です。リップサービスのつもりでついた嘘は、自分では忘れてしまっている、相手が覚えているものです。ですからリップサービスもほどほどにしなければいけません。

昨日一日振り返って、良い一日だったと思われる方？

(・・・沢山手が挙がる)

良い日がずっと続くと、どこかでご褒美が出ます。

一週間を考えて戴いて、有難うと言いい有難うと言われる日が続けた方はおられますか？

(・・・若干手が挙がる)

ちょっと少なかったですね。

昨日一日、有難うと言いい有難うと言われた方？

(・・・沢山手が挙がる)

今、お聞きしていることは、日本の言葉の中で自分が癒されてホッとする、エネルギーが生まれる宝物のような言葉だと思います。どうぞそれをご自分のものに活かして戴きた

いと存じます。

知足応分

中斎塾フォーラムの基本哲学は「知足」です。

私は一月の半分くらい外に出て泊まるのですが、先日或るビジネスホテルで朝食をとりました。その時に、知足を考えさせられる光景を見ました。バイキングだったのですが、八十代のお婆さんがお皿に山盛りに盛っていました。セルフサービスのお茶の入れ方が分からなくて困っていたので私が教えたのですが、その方は「ふんふん」と頷いただけで、「有難う」も言いませんでした。食事が終って席を立てて行かれた後、テーブルを見ると食事にほとんど手がついていませんでした。自分の食欲、胃袋の限度を知るということを覚えていないのですね。年相応に「足るを知る」を覚えているお婆さんと、そうでないお婆さんでは、周りの人に厄介をかけるかけ方が自ら変わってくるのだなと感じました。

ある程度高齢になると、周りの人が氣を遣います。それは日本人の美德として結構残っていますが、やってもらって当たり前になっていると、「有難う」という言葉も出ないことになります。わが身に置き換えて、このようなことはやめようと思いました。私も見るもの皆、食べたいくちでしたが、努力して昨年から腹八分目、七分目にしました。今年は腹六分にしました。腹六分だと、食べた時に空腹感が若干残ります。食べ終わった後も空腹感がずっと維持されます。空腹感を、なかなか良い感じだと思えるようになるまで続けてみようと思っています。

あのお婆さんは腹八分目も食べないで腹三分くらいで終りにしましたから、その点ご自分は良いけれども、周りには迷惑をかけてしまいました。やはり「足るを知る」「ほどほどに」ということを身体の中に染み込ませていないとこうなってしまうのだと、氣をつけなければいけないと思いました。

我々の考え方の基本にあるものは「知足」「ほどほど」です。鳩山首相も毎月1500万円ずつお母さんから貰っていたのを、知らないわけではないのです。1500万は多過ぎるという気持ちがあれば、ほどほどにしておけば、後でこれほど叩かれないで済むのです。小沢さんは土地の購入資金は父親からの遺産だと言っています。

私が三十数年前に会社を興した時、或る先生から教えて戴いた言葉があります。「深澤君、人生を全うしたいなら、訳の分からない金には手を出すな」それと「女を泣かすな」と教えて戴きました。当時はどちらもピンと来ませんでした。最近をよく分かります。

訳の分からないお金に手を出した為に、小沢さんは今日、事情聴取をされるわけです。「女を泣かすな」というのは、払うものをきちんと払えという意味もあるのでしょうか。日本の国の総理大臣で、女性に払うものを惜しんだ為に首を飛ばされた人がいます。蜂の刺しで話題になった女性もいました。女性は怖いですね。

分に心ずると申します。これが自分の分だなと思うところがあるはずです。

論語の視点

本日の論語の素読は、里人第四 5～11 です。

素読を致しますので、この中からご自分にあったもの、これは良さそうだと思うものが見つければ成功です。ちなみに申し上げますと、論語のレベルは、意味が分からなくても声に出して読む、それが第一段階です。第二段階は、意味が何となく納得できる。腑に落ちる。第三段階になると、その場面が映像で浮かぶ。そこまで来ればしめたものです。ですから最初はず、お読み戴く。論語の素読は全国的に広がっています。特に子供さんには非常に良い勉強方法です。素読の基本は3つあります。背筋を伸ばす。目線は気持ち上へ上げる。気持ちのよい大きな声を出す。では、ご一緒に素読を致しましょう。

では解説を申します。論語を読むときは、現代に置き換えて、今の時代であればどういうふうに解釈するかという視点が肝心です。

【五】 子曰く、^{しいわ}富と^{とみ}貴きとは、^{たつと}是れ人の^こ欲する^{ひと}所なり。其の^{ほつ}道を以て^{ところ}せざれば之を^そ得とも^{みち}処らざるなり。貧^{もつ}しきと^{これ}賤しきとは、是れ人の^う悪む^お所なり。其の^{まず}道を以て^{いや}せざれば之を^こ得とも^{ひと}処らざるなり。君子は^{にく}仁を去りて^{ところ}悪くにか^そ名を成さん。君子は^{みち}終^{もつ}食の間も^{これ}仁に^う違ふこと^さ無し。造^{くんし}次にも^{じん}必ず^さ是に^{いず}於てし、顛^な沛にも^な必ず^な是に^{くんし}於て^{しゅう}す。

富と貴きとは、是れ人の欲する所なり。其の道を以てせざれば之を得とも処らざるなり。財産と地位は、誰でも欲しがるものだ。人間として正しい道を通して財産や地位を得たのであれば良いけれども、不正な手段で手に入れたのであれば、安心して眠ることはできないであろう。

先ほど申し上げた鳩山さんも小沢さんも、安心して眠れないだろうと思います。お二人に対して同情して読む部分です。

貧しきと賤しきとは、是れ人の悪む所なり。其の道を以てせざれば之を得とも去らざるなり。

貧乏と賤しい、こういうものは誰でも嫌がるものだ。段階を得て落ちるべくして落ちたのであれば分かるけれども、正しい理由がなく、急に誰かの陰謀や自分の意に反してそうなったのであれば、甘んじて君子はそれを受けものだ。

正しい理由なく貧乏人になるのは腹が立ちますが、現実には起き得ます。この間、北朝鮮でデノミがありました。その前はロシアでデノミをしました。凄まじい数の人が貧乏人になりました。その人達のせいではなく、その国の通貨を沢山貯め込んだが為に貧乏人になってしまった。ロシアのデノミはお金の価値そのものをなくしました。例えば、老後の為に1億円を貯めていたのが、デノミによって10万円の価値しかなくなってしまいました。ですからすぐに使い果たしてしまって、結果として飢え死にです。私は数年前に経済破綻をした国々を回りました。実際にロシアに行って、相当数の人が餓死していると実感しました。飢え死にしない人は、自分でジャガイモを作って飢えを凌いだ人達でした。モスクワ市民は政府に申請すれば郊外に土地を分けて貰える制度があったので、それを活用して土地を貰い、バラックを建ててジャガイモを作りました。自分の家族だけでなく、親戚や友人にも分けあって助け合ったという話を聞きました。

このことから分かるように、デノミを断行した時には、国が国民を裏切ったということです。自分の国のお金を信用して、ルーブルを沢山持っていた人は飢え死にをしました。ドルに換えていた人達は、ほとぼりがさめて換金した時には大金持ちになっていました。

北朝鮮のデノミも、やはり飢え死にする人が相当数出ると思います。

日本もかつて国民に同じようなことをやっています。日本は六十数年前に、新円を発行しました。筆筒預金を全部あぶり出して銀行に預金をさせて、預金封鎖で下ろせなくしました。下ろせるようになったのは、富裕税が解除された時です。富裕税というのは、お金持ちに対して90%くらいの税金をかけました。お金持ちからあらかた税金を取り上げ終わった時に、預金封鎖を解除しました。しかし下ろしたお金はまるっきり価値のないものになってしまった。

北朝鮮の場合は、今あるお金を新しいお金に換えました。新しいお札に換える際に上限が決まっていて、それ以上は取り替えてもらえません。ですから筆筒預金を沢山持っている人もいたようですが、全部紙くずになってしまったわけです。

デノミによって、その国のお金を信用して筆筒預金をしていた人達は皆、裏切られたわけです。私はこれから10年くらいの間に、日本でも起きるだろうと思っています。

「其の道を以てせざれば之を得とも去らざるなり」の部分は、国が賄賂・汚職その他で運営されているようであれば、国が没落してゆくだろうし、自治体も企業も同じようなことをやっていけば没落する。個人も又然り。ただ、清く・正しく・美しくし過ぎていて落ちて行った人は、そこで無理にあがかず浮かんでくるのを待ちなさい、と読みました。

君子は仁を去りて悪くにか名を成さん。君子は終食の間も仁に違ふこと無し。造次にも必ず是に於てし、顛沛にも必ず是に於てす。

君子は仁の境地から離れてしまったら、どうして君子と言えようか。一度高德者になったなら、どのような境遇になってもそこから離れようとはしない。君子は食事中も仁から離れない。どのような慌ただしい時であっても、必ず仁を忘れないし、失敗した時でも仁が頭から離れないものだ。

仁とは、自分自身への思いやり、周りへの思いやりです。仁というところにひとつ突き抜けた人は、いつ如何なる時でも自分が悟ったものを忘れることはない。一体化してしまっていると理解すればよいでしょう

お金を4億円稼いだり、知らない間に12億貰ったり・・・というのは、やはり不仁の方に入ってしまうでしょう。そういう人は身に垢が付いてなかなか取れない。ですから日頃の動きや考え方は相当注意しなければならないと感じます。

【六】 しいわ われいま じん この もの ふじん にく もの み じん この もの もつ これ くわ 子曰く、我未だ仁を好む者、不仁を悪む者を見ず。仁を好む者は以て之に尚な ふじん にく もの そ じん な ふ じん もの そ み くわうること無し。不仁を悪む者も、其れ仁を為す。不仁なる者をして其の身に加えしめよ いちじつ そ ちから じん もち あ われいま ちから た もの みず。能く一日も其の力を仁に用うることに有らんか、我未だ力の足らざる者を見ず。けだ これあ われいま これ み蓋し之有らん。我未だ之を見ざるなり。

我未だ仁を好む者、不仁を悪む者を見ず。仁を好む者は以て之に尚うること無し。不仁を悪む者も、其れ仁を為す。

私はまだ本当に仁を好む者、不仁を憎むような人間を見たことがない。仁を好む者は、これ以上仁を望まない。不仁を憎む者も、仁を成すことができる。

不仁を憎む者は、今で言えばマスコミです。悪いことをしている人をマスコミは叩きます。叩いていること自体が悪いことをしないように止める力を持つから、それ自体が良いことなのだという意味です。

不仁なる者をして其の身に加えしめず。能く一日も其の力を仁に用うることに有らんか、

不仁者であっても、一日くらいであれば自分の持っている力を良いことに使うことができるであろう。

鬼平犯科帳をご存知でしょうか。池波正太郎の作品は、善人でもどこかで少し悪さをしている。悪人でも自分の心の調整をするために、どこかで良いことをしているという内容のものが多いです。悪いことをした人であっても、どこかで何か良いことをして心のバランスを取っています。逆に、どんなに素晴らしい人間でも、心のバランスを取る為にどこかで何か悪さをしているものです。

自分で良いことをしたなと思ったら、知らない間にどこかで悪さをしているかもしれないと自戒しつつ過ごせばよかろうと思います。

我未だ力の足らざる者を見ず。蓋し之有らん。我未だ之を見ざるなり。

良いと思うことをしようとするが、力不足で出来ないと弁解する人には出会ったことがない。良い事をしようと思ったら、大概、良い事を少しはしているはずだという意味です。

赤い羽根募金の前を無碍に通れなくて、何本も羽根をつけるような人もおられると思います。ちなみに中斎塾フォーラムでも、ミャンマーの地震の際に募金を集めて、副代表幹事が現地に行って、頭を使い身体を使って、お米や文房具を子供たちに届けてくれました。

【七】 しいわ 子曰く、ひと 人の あやま 過 おのおの ちや、そ 各 どう 其の おい 党に於てす。あやま 過 み ちを ここ 観て じん 斯に し 仁を知る。

誰でも過ちを犯すけれども、その過ちは生まれ育った風俗習慣や、所属している仲間の色合いがよく出てくるものだ。どういう過ちをしたか、その後の処理の仕方を見て、その人間が仁を志しているかいないかが分かる。

今、世間を騒がしている小沢さんと鳩山さんで考えると、小沢さんがさっさと事情聴取に応じて事実関係を明らかにすれば良いものを、田中角栄や金丸信といった自分の師匠が検察にやられたことの怨念がしっかり残っていて、所属している民主党も巻き込んで、検察に対抗しようとして常識とは違う動きをしています。その結果、今の民主党の中でも小沢さんに迎合して、グループを作って検察はけしからんという動きをやっています。民主党はそういう政党なのかと思ってしまう国民が、非常に増えています。小沢さんも自分で失敗したと思ったならジタバタしなければよいものを、今の過ちの処理の仕方はおかしい。

昔は「末は博士か大臣か」と言いましたが、今の大臣は叩かれてばかりですから、大臣になりたいと思う子供はいないでしょう。尊敬できる人物がいらないということが、日本の

今の不幸だと思います。ですから自分が生きていく間に、理想とする人物に出会えたら素晴らしい。佐藤一斎が『言志四録』の中で、人生の三つの師匠について言っています。それは、第一に天地自然。その次は師匠です。第三は良い書物です。

今現在どういうグループに所属しているか、どういう仲間と切磋琢磨しているかによって、その人の人生が見えてくる。その中で救いは、素晴らしい師匠に出会えたなら、人生は素晴らしくなると言っています。ご自分を省みて、師匠がいるかどうか、良い本にめぐり合ったかどうか、天地自然とどう相對しているか、その辺をお考え戴くとよろしいでしょう。

【八】 子曰く、^{しいわ} 朝^{あした} に道^{みち} を聞^き ば、夕^{ゆうべ} に死^し すとも可^か なり。

これは、孔子は絶望しているのだと思います。孔子は一生涯かけて素晴らしい理想の国家を作ろうと思って努力をしましたが、できませんでした。勝ち負けで言えば、負けの人生を送っていて、最後に自分は教育をして自分の思想を弟子たちに残そうとしたわけです。ですから、孔子の弟子であればエリートの教育を施されているということで、諸国にどんどん採用されました。孔子自身は自分の思うような仕官はできませんでした。

自分の理想的な社会、道徳的な素晴らしい社会が自分の生きている間に実現すれば死んでも構わないということで、この文章を理解します。

色々な学者の先生が様々な解釈をしますから、自分で納得の出来る解説を自分のものにすればよろしいと思います。

お時間が少なくなりましたので、【九】～【十一】の解説は次回に致します。

紹介書籍 「カレント」

今日紹介する書籍は「カレント」という月刊誌です。

今月号から半年書かせて戴くことになりました。衆参両院の議員全員に配布しているということですので、かなりの政治家が見ています。せっかく政治家が見るのですから、ちょっと耳が痛いようなことを書こうと思って書きました。「鉄面皮の議員」というものを1月号に書きました。2月号には「鉄面皮の議員」の理由を、もう少し深く突っ込んで書いています。政治家が多少なりとも変わってくれればと思って書いております。

本質・大局・歴史の観点で鳩山政権を見る

ものを考える時の手法として、本質・大局・歴史の観点で見るとよろしい。中斎塾フォーラムでは、それが自然と身に付くように勉強して参ります。これは安岡正篤先生の言われた判断の三原則と木内信胤先生のお考え方に準じています。お二人の先生のお考え方を元に、本質・大局・歴史という言葉にまとめました。本日は、この本質・大局・歴史をテーマにしました。

来月は知識・見識・胆識を勉強致します。色々な問題を知識として捉え、私ならこうするという判断の基準を持っていたなら見識です。更に実行すれば胆識です。

知らず知らずの間に物事を判断する時の判断基準が身につくように、このフォーラムを進めていきたいと思っています。

鳩山政権は持つわけがありません。本質的に見て、政権交代したことによって鳩山政権の使命はもう終わったと思っています。大局的に見て、新しい政党が生まれると思います。歴史的に見て、干支学で考えると、60年前は色々な政党が生まれたり、名前を変えたり、政界がかなり揺れ動いた時期です。こういう背景がありますので、今回も揺れ動いているのは一つの流れで、うたかたのように消えていくものだと感じています。

ですから、鳩山政権は持つわけがない。いつ鳩山さんが投げ出すのか、自分から進んで投げ出すのか、雪隠詰めで首を切られるのか、どちらを選ぶかという状況だと思っています。そこらへんで鶴の一声を出す小沢さんも今の体たらくです。鳩山さんがどういう形で退陣するのか非常に興味があります。退陣した後の話については、又、来月申し上げるつもりです。

以上で本日の講話を終了致します。有難うございました。